

3) イギリス7月13日から7月16日

モントリオール YUL22:30(AC864) ⇒ ロンドン LHR10:25

アメリカ編で述べたようにモントリオール出発は00:50 2時間遅れの出発である。ヒュースロー空港に着くのは12:30頃、テルフォードのホテルチェックインは16時前後を予定していたが、そのままトラブルがなくても2時間ほど遅れる。夜暗くなると厳しいが、夏場のヨーロッパである、日が長いことに期待をしよう。

モントリオールでは時間が十分にあったので、ラウンジで改めてヒュースロー空港からテルフォードに行く方法を検討し

た。鉄道で移動する場合は空港からロンドン市内に電車で向かい、地下鉄を乗り継いで、再び鉄道でバーミンガム経由テルフォードに向かうコースである。旅行前にインターネットで調べたところ、空港からバーミンガムに行くバスがあることは承知していたが、確実性などから鉄道の利用を考えていた。バーミンガムに向かうバスはおおむね1時間に一本あり、そこからテルフォードに鉄道で向かう。乗り換え時間を考慮すると全て鉄道利用より時短できる。そして何よりも運賃が安い。イギリスではコーチバスと言われており、都市間を縦横に路線がある。日本の都市間高速バス路線と同じような感じであり、安価な運賃に設定され、ネットで購入するとさらに安く購入できるという。しかし、バスが渋滞に巻き込まれると時間の予定はつかないというアナウンスもあった。モントリオールからヒュースロー空港到着が2~3時間遅れるとなると、ここはバスに賭けてみようと考えた、特に土曜日の昼間であることだし？



AC864の機内食（夕食）



イギリス高速道からの風景

翌日、ヒュースロー空港には2時間少しの遅れの12:30に到着した。ここから入国審査、荷物の引き取り、バスターミナルへの移動、切符購入乗車となる。入国審査はいたって簡単であった。日本パスポートの表示に従って進むと自動入国審査があり、パスポートをかざし、写真を撮る（もちろんトロントの二の舞はしない）と終わりであ

る。荷物がターンテーブルに出るまでは若干の時間を要したが、プライオリティータグのおかげで早い目に出てくる。降機してからここまで30分も経っていなかったと思う。バスターミナルへは少し道に迷ったが、切符を購入、出発(13:30)の10分前に乗車できた。素晴らしい。

バーミンガム行きのバスは15名ほどの乗客を乗せて出発した。途中バンベリーの町で10名近くの乗客が下車、バーミンガムには2時間半ぐらいを有したと思う。バーミンガムのバスターミナルから鉄道の駅まで徒歩で10分ほどである。ちょうど、土曜日の夕方町は多くの若者でにぎわっていた。駅で、切符を自動券売機で購入する。駅員にテルフォードの英語メモを見せて尋ねると、駅名を入力、最終クレジットカード挿入まで教えてくれた。もちろん、PINナンバーの時は横を向いてくれた。そして、乗車するホームのナンバーまで教えてくれた。感謝！テルフォードは途中駅なので注意をしなければならないが、電車内の電光掲示板に駅名が出るので安心できる。



道中 バンベリーの街

テルフォードの駅に着き、ホテルに向かう。地図で道順を見ると駅からはハイウェイを横断してホテルに向かうルートが示されていた。しかし、最近できたのであろうか、駅から直接ハイウェイの上を通る横断橋があった。地図とは違うルートでもあり、途中でホテルへの道順を尋ねながら向かう、分からなかったら、誰かれなく尋ねることに慣れてきた。日本で、外人さんにもし尋ねられたら頑張って教えてあげたい。そんなことで、ホテルにチェックインしたのは17時過ぎだったように思う。もちろん、曇り空でも周りはまだ明るく昼間だ。



テルフォードのホテル

7月14日日曜日、今朝ホテルを出てアイアンブリッジに向か

う。その前に、この橋に関して少しだけまとめておこう。アイアンブリッジはイングランド、シュロップシャー州コールブルックデイルのセヴァーン川に架けられた世界最古の铸铁製のアーチ橋で全長は約60m、対岸に製鉄原料などを運ぶためにつくられた。この地には鉄鉱石、石炭など製鉄に必要な資源があり、産業革命の始まった場所と言われ、世界遺産にも登録されている。1777年に着工し1779年竣工、

1781年1月1日に開通したという。それではなぜ、世界一周の目的地の一つとして選んだのか。

生まれて自らの稼ぎで飯が食えるまでは誰かの世話になり育ってゆく。それが親であることは、世の中の大多数の人々に当てはまることであろう。もし、その親が鋳物屋であればどうだろう。現在のはりまや橋は観光用に、いわゆる日本三大がっかりのシンボルとしてそれらしく存在している。そのそばにまだ堀川が流れていたころの御影石で作られたはりまや橋がある。この橋は昭和25年の竣工で祖父(母方)が関わった。そして、欄干飾りなど鋳物製品は父が「ふいた」(鋳物屋の用語で鋳鉄を溶かす作業を「ふき」という)ものである。250年近く前に作られた鋳物製の橋は鋳物屋のシンボルの一つかもしれない。



朱塗りの鋳物製欄干飾り



本来のはりまや橋

テルフォード駅からアイアンブリッジに向かう。日曜日はこの駅からのバスの運行はないという情報があったが時刻表の確認に向いた。駅は閑散としていて、時刻表を確認する女性を一人だけ見かけた。と、バスがやってくるのではないか。バスが停車、すると彼女は運転手に何か尋ねた。私も、彼女の運転手との会話が終わった後、すかさず、このバスはアイアンブリッジに行きますか？(もちろん、カタカナ英語)と尋ねた。運転手は、彼女に聞けという。そして、私と彼女は目を合わせた。結論から言うと、ネットの情報とおり日曜日は運行がないとのことである。そこで、彼女と相談の上、タクシー相乗りで行こうということになった。たまたま1台、いや、きっと運よく、タクシーが客待ちをしていたので彼女はタクシーの運転手に聞きに行ってくれた。アイアンブリッジまで約10£(当時のレートで1,500円弱)こ



テルフォード駅

れなら最初からタクシーを選択しておけばよかった。

タクシー内で彼女との会話はほとんどなかったが・・・建築関係の仕事をしおり、アイアンブリッジのデザインを非常に気に入っているようで、どこかに行く（地名は聞き取れなかった）道中に途中下車したそうである。今思えば、イギリスレディーに面と向かって話をする度胸もないが、名前を聞いてメールアドレスぐらい交換しておけばよかったと思う。やがて、アイアンブリッジに着き、タクシーのメーターは10.5£くらいになっていた。最寄りの王寺駅から家までのタクシー料金と同じくらいである。私は全額払おうとしたが、彼女は彼女自身が誘ったことでもあり、5ポンドを出してほしいといわれ従った。感謝。

彼女は私の帰路についてもアドバイスをくれた。私はアイアンブリッジ周辺の散歩もする予定であるが、彼女はブリッジのみの見学ですぐに駅に引き返すという。町の人に、テルフォードへの帰路方法を教えてもらい、私に伝えてくれた。イギリス人は絶対親切に違いない。

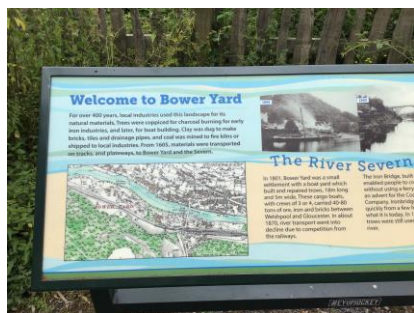
アイアンブリッジは赤茶色のペンキで塗られていた。250年も昔に作られた鋳物の橋とは思えない。彼女はしきりにビューティフルを連発していた。橋を渡り、くぐり、先を急ぐ彼女とはここで別れた。年のころなら40歳前後、鼻の高さは及びもしないが心豊かなイギリス人、名前と写真ぐらいは残しておきたかった。



彼女と別れて橋を渡り対岸（右岸）に向かった。当時、こちら側は石炭運搬用の鉄道が通っていたという。こちらの岸には観光客も訪れないのか草生す中に説明パネルや当時のトロッコが展示されていた。



対岸からの風景



かつてのレール後

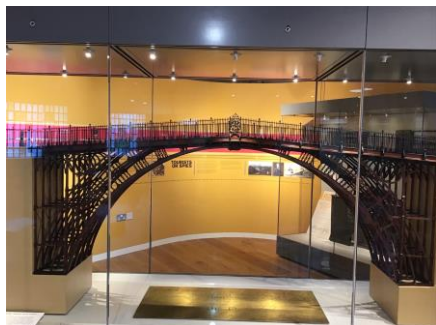
橋からセヴァーン川の左岸を上流に向かうと5分ぐらいのところにミュージアムがある。この博物館は、今は自然豊かな片田舎の町もその昔栄えていたころの資料が残されている。古き良き時代の栄華が見えるが、今の景色に癒される人々が多いと思う。地球温暖化のスタートの場所の一つにあげられるのではないだろうか、と考えるが、この時代はまだよかったかもしれない。入場料は、年齢は忘れたが老人割引が使える、自己主張をする日本人に変貌して行く、もちろん老人割引を主張した。ここでもフレンドリー妙齢の英国人、身分証を見ることもなく応えてくれた。帰り、彼女からアイアンブリッジデザインのエコバック（25ページ写真）を購入した。

ここを後にして、さらに上流へ、コンビニのある



小学校

三差路を右折しコールブルックデイルの工場跡を利用した博物館に向かう。博物館までは1 kmほどであろうか、昔良き時代のイングランドを思わせる小学校などの建築物を見ながら坂道を上る。博物館は工場跡地を利用し、レンガづくりの当時を思わせる建物である。内部には製鉄の歴史や産業革命前後の鉄製品など興味深い展示品が並んでいた。



コールブルックデイルの工場跡と内部の展示物

三叉路にあったコンビニでサンドウッチとバナナと水を購入、これが今日の遅めの昼食である。セヴァーン川沿いにいたるところにベンチがあり川を見ながら食事ができる。アイアンブリッジ近くには多少の店屋さんも見受けられたが少し離れると、日本のお土産屋さんなどは見当たらない。店らしきは、コールブルックデイルに行く途中で見かけた、と言ってもよほどのこと、注意しなければ分からない。コンビニ、此処ぐらいしかないといってもよい。この町すべての景観を壊さないような配慮がしてあることはたいへん素晴らしいと思う。



さてこれから帰路にうつる。到着時に教えてもらったようにセヴァーン川左岸から左にそれ、きつめの坂道を上る、そのまま道なりに約2 km近く行くと右手に果物屋が見えてきた、その斜め前がバス停である。10分もするとバスが来て、運転手に

テルフォードに行くか尋ねる。OK！バス代は2£ちょっとだったように思う。バスは、テルフォードのバスターミナル（ショッピングセンター）に着いた。ここからはホテルまで歩いて10分もかからない。

この町に食堂らしきものは見当たらない。週末となるとショッピングセンターも早めに閉まるらしい。まだ外は明るい、6時ごろであろう、センター内にあるマクドナルドも閉まっている。横のスーパーマーケットは営業をしていたが食指を動かすものは見当たらない。ま、今夜の夕食はホテルのレストランを利用しよう。

レストランを覗くと否応なしにウエイトレスさんにドアを開けられる、もう彼女の指示に従って席につくしかない。彼女は夜のとばりに変わるイングリッシュガーデンの見える窓際の席に案内をしてくれた。で、メニューを見せられても実体と結びつかない。そのような中で、物が分かるものがあった。イギリス名物フィッシュアンドチップスである。以前、ロンドンで食べたフィッシュアンドチップスはとても食べられたものではない記憶がある。噂に言うイギリスにうまいものなしの代表格を味わった。しかし、イギリスと言えば、フィッシュアンドチップス、今注文できるものはこれしかない。で、結論を言おう。このホテルのフィッシュアンドチップスはなかなかの逸品である。写真はチキンのモモに見えるが間違いなく魚である。あわせて、彼女の勧めの地ビールを注文した。このビールもうまい、もちろんアナザーグラス、もう2杯(^^♪



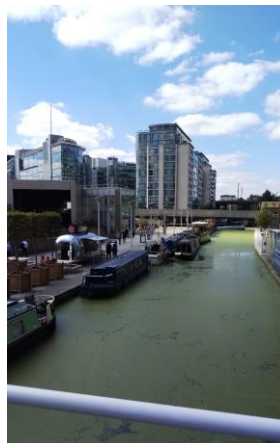
イギリス鉄道車両

テルフォードロンドン間
キップと領収書



テルフォードは2泊してロンドンに向かう。ロンドンまでは大人普通席片道のオフシーズン料金で60£、バーミンガムで乗り換えロンドンまで約3時間弱の列車の旅である。

ロンドン、ユーストン駅に着いたのは2時半ぐらいであった。ここからは地下鉄を乗り継ぎホテルに向かう予定をしていたが、まだ早い。ホテルまで約4km程なので、とぼとぼ歩いてゆくことにしてみた。歩くといろいろなものがよく見えてくる。



ロンドンの一步入った街並み
アオコの運河
ROYAL ACADEMY OF MUSIC



ホテルの窓からメリーポピンズの世界
ロンドンの満月



7月16日これからミュンヘンに向かう。ここでも、出国審査の記憶がほとんどない。イギリスは比較的出入りが自由な国と感じた。出発までヒースロー空港のラウンジで過ごす。落ち着いた雰囲気のあるラウンジである。

